

2014年4月30日

プロジェクト報告書

団体名 国分寺あゆみ会

▼報告書の扱い、および記入にあたっての注意点

この報告書(精算報告書以外)は、ホームページなどで公開する予定ですので、広く読まれることを想定してご記入ください。また、編集段階で、表記・表現等を事務局で編集する場合がありますので、あらかじめご了承ください。語尾の表現が「です・ます」調をお願いします。報告書に掲載するため活動の内容がよくわかる写真(2枚程度。写真の肖像権問題がないものの提出をお願いします)を添付して下さい。

1. プロジェクト名

相談支援事業：家族相談（継続実施に向けて）

2. プロジェクトの目的とその背景 300文字まで

※応募申請書に記載のもので可。

2012年と2013年の2年間は2万人台になりましたが、2011年までは14年連続して3万人以上の方が自殺をされています。原因は様々だと思いますが、その9割は精神に何らかの疾病や障害がある状態とも言われています。また国は、2012年7月に精神疾患を正式に国民病に追加致しました。その数323万人、つまり39人に一人の割合で何らかの精神疾患があるという事になります。統合失調症は100人に一人となっています。そして精神に関しては、きちんと、安心して、じっくり相談出来る場所は殆どありません。

3. プロジェクトの内容 300文字まで

会員の中から相談担当スタッフとして相応しい人を数名(3人～6人)選び、機会があれば講習会や研修なども重ね、原則的に毎月第1と第3水曜日に10:30～15:00の時間帯で「あゆみハウス」内で待機し、守秘義務をしっかりと自己確認しながら、主に家族のために、相談支援事業を遂行して参ります。

相談に対する姿勢としては、先ず相手の話をじっくり聞くことを基本にし、手に余る困難事例については社会福祉法人はらからの家福祉会を始め他の専門機関を紹介しながら、可能な範囲で途切れることなく相談者に関わっていくように努めています。

報告書を用意し、相談内容の把握と振り返りが出来るように整理し、大事に保管して参ります。(守秘義務有り)

4. プロジェクト実施にあたっての工夫点とその効果 300文字まで

電話を施設し、維持することによって、相談支援事業の安定した継続実施を企図しております。問題解決に向け、全てはまず、相談から始まります。活動交流拠点「あゆみハウス」において、精神科看護師、経験を積み重ねてきた会員等の指導や助言を基に、家族同士の交流と飲談・懇親をまじえながら、当事者としての知識や経験を生かし、きめの細かい個別相談を、長く定期的に実施することを心がけております。主に家族会員を対象に実施しておりますが、国民病としての位置づけも意識しながら地域全体に枠を広げて、根気よく継続実施していきたいと願っております。最近では、他県からも相談が寄せられるようになりました。

5. 全体的所感、終了しての感想など 300文字まで

本会は、相談支援事業に対して継続・発展に向けた努力を最大限果たしていく決意です。

特に、今年度は真如苑様による「Shinjo プロジェクト」市民活動公募助成支援が、相談支援事業：家族相談（継続実施に向けて）に対し実施された事実を先ず感謝を以て受け止め、助成終了とはなりますが、更なる充実と継続に向け、希望を持ってしっかりと研修と学習を重ねて参ります。

財政難という事から市の補助金カットと、新たに活動拠点を確保しなければならないことに伴う大きな出費の影響が未だに残っていますが、これを取りきり、今まで以上に市行政を始め関係機関と協力連携しながら、相談支援事業：家族相談をしっかりと継続・発展させていく決意でございます。

6. 参考資料

支援対象プロジェクトで作成したチラシ、パンフレットやマスコミで紹介された記事等は現物またはコピー、活動風景の写真を参考資料として提供してください。

参考資料あり・特になし